

実習内容
ならびに
スケジュール

ペインクリニック部

曜日	内容	担当	集合時間	集合場所
月	オリエンテーション 緩和ケアプレゼンテーション	佐藤（和） 佐伯	9：45	ペインクリニック部医局(1号館5階)
	外来見学	高雄・石本・宮本	10：00	ペインクリニック外来(2号館2階)
	透視下ブロック見学→レポート作成	高雄・石本・宮本	13：30	TVセンター 5（1号館2階）
	ミニレクチャー	高雄	14：30	ペインクリニック部医局（1号館5階）
火				
水				
木	（レポート作成）			
	心理テスト	佐藤（和）	14：30	ペインクリニック部医局(1号館5階)
	認知行動療法	吉田	15：00	ペインクリニック部医局(1号館5階)
金	手技の練習	高雄・石本・佐藤（史）	10：00	ペインクリニック外来（2号館2階）
	総括	高雄	13：30	TVセンター 5（1号館2階）
	（レポート提出締切）		17：00	（Moodleにてアップロード）

◎ 診療科名： ペインクリニック部

◎ 責任者氏名： 高雄 由美子 教授

◎ 指導教員氏名： 高雄 由美子 教授

◎ 実習概要

1. カンファレンス、2. 慢性疼痛患者の診察、3. 模擬実習（腰椎穿刺）、
4. レポート作成、5. その他各種処置・治療の見学などを行い、慢性疼痛をもつ
患者さんや緩和ケアを必要とする患者さんの診察・治療やケアの立案ができる
ことを目指す。

◎ 各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

- ・ 急性疼痛と慢性疼痛を鑑別できる。
- ・ 侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛を鑑別できる。
- ・ 慢性疼痛の的確な診断と治療の立案ができる。
- ・ 慢性疼痛の集学的治療について理解できる。
- ・ がん性疼痛の的確な診断と治療の立案ができる。

◎ 準備学習ならびに事後学習に要する時間

- ・ 4年次の「臨床疼痛学」をよく復習すること（2日間）
- ・ 2年次の薬理学の鎮痛薬を復習してくること（3時間）

◎ 評価方法

知識、態度（積極性）、コミュニケーション、病態の把握、EBM（文献に基づいた考察）、カルテ記載、プレゼンテーション技術（構成、スライドの見やすさ、伝え方など）について評価。

評価基準をループリックで明示。

	1	2	3	4	5
知識★	痛みに関連する生理学、解剖学の知識が足りず実習継続が困難である。	痛みに関連する生理学、解剖学の知識が十分である。	痛みに関連する生理学、解剖学の知識がある程度ある。	痛みに関連する生理学、解剖学の知識が十分ある。	痛みに関連する生理学、解剖学の知識が特に優れている。
態度（積極性）★	他者に対して不快な印象を与えない。	実習内容に興味を示さない。	ノルマはこなしているが、やや消極的。	実習に対して積極的。	疑問点に気づくことができ、質問ができる。
コミュニケーション★	誰ともコミュニケーションをとらない。	こちらからの働きかけに対しても反応しない。	こちらからの働きかけに対してのみ反応する。	働きかけがなくても他者との交流ができる。	他者とのコミュニケーションが良好にとれる。
病態の把握	模擬実習で患者管理ができない。	模擬実習で患者管理が不十分である。	模擬実習で患者管理をある程度行える。	模擬実習で患者管理を行える。	模擬実習で患者管理を的確に行える。
EBM（文献に基づいた考察）とレポート作成（文章構成、書式の作成など）	AI や他文献からの複写。	箇条書きで記載されており、参考文献の記載なし。	レポートに参考文献として記載されている。薬剤説明のみ記載されている。	レポートに参考文献として記載されている。痛みの原因や治療方法が記載されている。	レポート内容に文献が反映されている。考察が含まれている。

◎ 中間評価とフィードバック

実習最終日にミニテストの解説と総括を行う。

◎ 注意事項

- 週によってスケジュールが変更になる場合があるため、事前に Moodle2 にて日程を確認すること。
- 初日は1号館5階ペインクリニック医局に集合すること。
- 外来見学、透視下ブロック見学、手技の練習時は筆記具のみ持参し、荷物（カバン）を持たずに集合すること（診療の妨げになるため）。
- 認知行動療法の講義はMoodleにレジューメがあるので、各自ダウンロードまたは印刷して持参すること。
- 遅刻や欠席の連絡は、当日 9 時 00 分以降にペインクリニック部医局 0798-45-6819 まで連絡すること。
- 課題のレポートは Moodle より用紙（Word 形式）をダウンロードし、記入後 PDF に変換しアップロードすること（締切：**実習最終日 17 時 00 分まで**）。
- レポートは痛みの原因ならびに治療について考察すること。
箇条書きではなく文章で作成すること（評価に影響）。